

平成30年

オリンピック・パラリンピック
推進特別委員会会議録

とき 平成30年8月1日

品川区議会

平成30年 オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

日 時 平成30年 8月 1日 (水) 午後 1時00分～午後 3時25分
場 所 品川区議会 議会棟 6階 第1委員会室

出席委員	委員長	いながわ 貴之 君	副委員長	鈴木 真澄 君
	委員	伊藤 昌宏 君	委員	本多 健信 君
	委員	石田 秀男 君	委員	塚本 よしひろ 君
	委員	あくつ 広王 君	委員	つる 伸一郎 君
	委員	南 恵子 君	委員	鈴木 ひろ子 君
	委員	のだて 稔史 君	委員	大倉 たかひろ 君
	委員	田中 さやか 君		

出席説明員	中山 企画部長	柏原参事 (企画調整課長事務取扱)
	安藤文化スポーツ振興部長	立川文化観光課長
	池田スポーツ推進課長	辻オリンピック・パラリンピック準備課長
	多並道路課長	

○午後1時00分開会

○いながわ委員長

ただいまから、オリンピック・パラリンピック推進特別委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付の審査・調査予定表のとおり、特定事件調査、報告事項、その他および視察を予定しております。

なお、本日の視察に際し、道路課長にご同席いただいておりますので、あらかじめご了承ください。

また、視察先の都合により、午後1時45分ごろには、庁舎を出発したいと考えておりますので、効率的な委員会運営にご協力をお願い申し上げます。

本日は1名の傍聴申請がございますので、ご案内いたします。

1 特定事件調査

オリンピック・パラリンピックの推進に関すること

○いながわ委員長

まず初めに、予定表の1、特定事件調査を議題に供します。

本日は、オリンピック・パラリンピックの推進に関するもののうち、ボランティアの育成・確保についてなどを議題といたします。

本日は前回の委員会で報告がございましたホッケー機運醸成ワークショップ「みんなで考えよう！ホッケー×2020×品川区」について、開催結果を中心に理事者よりご説明をいただき、大会の機運醸成と、にぎわいづくりを区民参画で行うための方策等について、議論してまいりたいと考えております。

それでは、理事者より調査事項について、ご説明願います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

それでは、私から7月22日に行われました「ホッケー×2020×品川区 ワークショップ」の結果についてご報告させていただきます。資料のほうをご覧ください。

7月22日の日曜日、午前9時から正午まで3時間行われました。

参加人数につきましては、28名。こちら定員30名のところ申込みが29名、当日1名欠席で女性が16名、男性が12名の計28名ということでございました。内訳は、ホッケー関係者が9名。ホッケー関係者というのは、プレーヤーですとか東京ホッケー協会の方でございます。それから、区関連団体、関連団体というのは、品川区商店街連合会ですとかしながわ観光協会、ケーブルテレビ品川の方で、合わせて7名。その他、一般公募として、12名の方にお集まりいただきました。年代としましては、高校生から60代の方までかなり幅広い層の方がいらしてくださいました。

このワークショップは、一応ゴールを設定しておりまして、1点目は東京2020大会で品川区が盛り上がっているイメージを参加者全員が共有していること。もう1点は、参加者自身が主体となって、東京2020大会に向けて何かしようかなと、何かしたいというふうな思いを描くということでございます。この2点に関しては、おおむね達成したかなと思っております。

当日の流れですが、四、五名が1グループになりまして自己紹介等を行った後に、区のほうから今回の趣旨といいますか目的を10分ぐらいお話しさせていただきました。その後にグループワークということで、東京2020大会のときに品川区がどんなまちになっていたらいいか。そういうことについて一旦四、五人でグループワークを行った後、ワールドカフェ方式といいまして、1人はその班に残って、

ほかの人は入れかわってまた同じ議論をするという方法で、2セッション行いました。

その後に、今度は思い描いた品川区にするためにはどんなおもしろそうなイベントや、アイデアがあるかを発散するというので、各自が書き出して、それを共有したというのでございます。

そちらに出た意見を主な意見として記載してございます。まず①のホッケー×オリパラを通して、品川区がどんなまちになったら面白そう？ という問いに関しましては、ホッケーの盛んな街、ホッケーの聖地になる。ほか、行ってみたいと思われる魅力のある街とか、異文化交流・おもてなし・ボランティアができる街。もう、すでによいまちだから外から来た人にもっとアピールしたいというような意見が出されました。

②イベントやその他のアイデアについては、ホッケー日本代表や有名選手によるサイン会、交流会、招聘試合等。それから、SNSを使った発信をもっとしたらいいのではないかと。選手図鑑のアプリをつくってもおもしろい。それから、商店街との連携の取り組みも出まして、ホッケー会場から区内の商店街への周遊バスを出すとか、観戦チケットを提示すると、そのお店で割引が受けられるとか、ホッケーカフェを開くとか、いろいろなお店の人にホッケーの応援隊になってもらうというところがありました。それから、ホッケーのドラマやアニメ、テレビとかそういったものに露出するものがあるというのではないかとということがありました。それから、「OK!」のとき「ホッケー!」と言う。これは私が気に入ったのですけれども、こういう簡単なことを書いたものもありました。それから、ロコミが大事なので、家族や学校の仲間などに少しずつ広めるのがいいのではないかとというような話もありました。

いろいろな意見というのが、ホッケー関係者の方、それから区の関係者の方から出たということで、ホッケーの方は品川区のことをそんなに知らない。品川区にかかわる方はホッケーのことは知らないというところで、いろいろな意見が相乗効果で出てきたというのでございました。

今後の展開なのですが、終わった後に、「とてもおもしろかった」、「また参加したい」といろいろ書いていただきまして、ここが継続的・発展的な活動に結びつけられるように、今回はアイデアを発散しただけで特にまとまりというのはなかったものですから、今度はアイデア競い合うようなアイデアソンだとか、その中で例えばアプリをつくるだとかそういう話になった場合には、ハッカソン、これはアプリのコンテストみたいなものなのですが、そういったものを今年度、2回程度は開催したいと思っていますというところでございます。

裏面のほうにワークショップの様子の写真を参考のために載せてありますので、ご覧ください。

○いながわ委員長

ありがとうございます。説明が終わりました。

ただいまのご説明に関して、ご質疑・ご意見等ございましたら、ご発言願います。

○あくつ委員

ありがとうございます。率直に言って、ものすごく敬意を表します。

私も前回の委員会でも質疑がありましたけれども、このホッケーというマイナーな競技。これは関係者の方も、ホッケー団体の方も「マイナー」とはっきりおっしゃっている。私も申しわけないですがマイナーという言い方しますけれども、区内で競技をしていただくということについて、うれしい反面本当にこれは難しいなと思う中で、私も考えていたどうやって盛り上げていくのかというところを、皆さんで一生懸命考えられたということについては、本当に敬意を表したいと思います。

それで、部長、申しわけないですけれども、念のために伺います。リオオリンピックの会場に行かれ

てご覧になったというお話も前にうかがいました。失礼しました、委員長もそうですね。リオオリンピックの会場が閑散としていたとそのようなこともうかがったことがあるのですけれども、改めて、繰り返されていることではあるのですが、品川区において、品川区としてこの競技場を本当にどう埋めていくのかというところ。前回も同じ議論をしたかと思うのですけれども、埋めていく責務というか決意というか。もちろん当然法令上そういう責務はないのはわかっているのですけれども、そういうことをどういうふうにお考えになっているのか伺いたいと思います。

○安藤文化スポーツ振興部長

実際に、リオデジャネイロの競技会場に行きました。それで、ホッケーとビーチバレーボールの会場2つ行きました。ビーチバレーボールについては、本当にもう満席なほどのにぎわいであった。これは事実です。もう一つのホッケーでございますけれども、国は忘れましたが、非常にいいカードだったことは確かなのです。にもかかわらず、本当に閑散としていたというのが事実です。そういうものを目の当たりにしたときには、開催区としてどうやってこれを埋めていく必要があるのかというのは非常に痛感したところですが、私どもが開催区として、東京都、または競技連盟と協力してホッケーというものを、品川区として何としてでも会場をいっぱいにして見返してやろうという非常に強い決意を持ったところではあります。

それから、課長も我々職員も含めて、いろいろなことを考えています。ですから、今回のこういうワークショップを皮切りにこういうこともやったり、また、この間、石田委員のほうからも提案がありましたまち場でのイベント等を行って盛り上げて、相乗効果を出したりだとか、さまざまなすべを使って、目標は100%とは行きませんが、8割方埋めていきたいというふうには本当に強い決意を持って考えているところです。

○あくつ委員

ありがとうございました。率直にご意見のほういただきましてありがとうございます。

ちなみに、チケットの金額が出ているかと思うのですけれども、幅があるかもしれませんが、念のための確認で教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

チケットの発表がつい最近あったところで、たしか一番安いもので2,500円からというふうに聞いております。

○あくつ委員

ホッケーが。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

たしか2,500円が一番下限で、上は開会式の何十万円という額で一番低い部分でございますので、組織委員会等も人気はないだろうというのが想定のものであるとは思いますが。

○あくつ委員

わかりました。ありがとうございます。

それはみんながわかっているという中で、本当に品川区としての挑戦。埋めていくという挑戦は、私も本当はない頭をひねらなくてはと思うのですけれども、前回の議論の中でもありました、つる委員からもあったと思うのですけれども、本当に品川区民全員が応援をする、サポーターになるというぐらいの何か仕掛けをしていかないと。39万区民にチケット配ってもいいのではないぐらい、これは極端な話ですけれども、いっぱいにする決意で、私も何か考えていきたいなと思います。

まとまらなくてすみません。

○いながわ委員長

ありがとうございます。

○石田（秀）委員

ワークショップお疲れ様でした。

1つ提案をします。そろそろここで観客が多く見込めない。では、どうするのか。先ほど来話が出たけれども、マイナーなスポーツをメジャーにしようという1つのそういう勉強をやっている方々。それから、スポーツビジネスとして捉えて、それをしっかりビジネス化して、それで集客を図っていこうとしている方々。これって特に部長は日本体育大学関係でもそういう人はいると思うので、ホッケーについては、そういう人をここはもう入れ込まないと。

いろいろなイベントを、私もいろいろなことを絡ませてやっていけばいいと思うけれども、そういう人をコンサルタント料を払ってやるのか、そうではなくてもいろいろな意見を聞いて一緒になってやってしまうのか。そういう人いると思うのです。

例で言えば、サッカーの川淵さんのもとで、組織体を全部一からつくった人とか、あとは野球なんか仕掛けて、例えば広島東洋カープなどはカープ女子などという名前からスタートして、今チケットだつととれないぐらい。横浜DeNAベイスターズもそうです。いろいろな仕掛けをしてチケットがとれないような。これはスポーツビジネス系の話。こういうぐらいの仕掛けがないと、やはり本当にマイナーなものはマイナーで終わってしまうのだろう。それで終わったら、品川区どうしたと。何のレガシーも残らないというような、負のレガシーばかりあってもしょうがないわけで。

せつかくならこれを契機に何かしらのものが行えればいいわけで、それには大田スタジアムもあったり、いろいろなことが周りにいろいろあるのであれば、そういうものもみな見てもらって、どういう形でやったらいいだろうという。もう、そういうご意見も聞いているのだろうけれども、そういう人も逆に見つけて、セミナーをやってもいいし、逆にコンサルとして、ある程度期間限定でお願いをしてもいいし、いろいろな報告書をつくってもらいやり方だつとあると思うけれども、何かそういうプロなのか、そういう人を入れ込まないと。それが電通だとかそういうところではなくて、そういうプロ的な集団があるではないですか。そういう人たちの採用というか、そういうのをどこかで考えて、もうやっていますよというならそれでいいのだけれども、ぜひそこら辺のところ。もしやっているならお聞かせいただきたいし、そういうのをもっと我々が目に見えてわかるような形で動いてもらうということもありかなと思うのだけれども、そこら辺はどうお考えかなというところだけ。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

ホッケーをこれまで以上に人気が出るスポーツにするための方策というご質問だと思います。

1つは、スポーツビジネスとして、コンサルを入れるというのは1案だと思います。現在のところ、そこまではしていないですけれども、今年度は非常勤職員ということで、ホッケーで3大会、オリンピックに出て海外でもプロでプレーをしていた選手を非常勤として採用しておりまして、海外での状況だとか、ホッケーが盛んである都市の話などは参考にしているいろいろな事業を組み立てているところがございます。それ以上という話になりますと、その方も選手目線だけですので、ビジネスというところではまた少し違ってくるのかなと思います。

今委員、おっしゃられましたとおり、例えばサッカーも前回の大会のときは全く人気がないスポーツだったのが、ここまで広まって人気になったのは、そういうストーリー性を持って育てたからだと思

ます。ホッケーがそういうふうになれるのかどうかというのは、まだ未知数なところもございますので、そこを見きわめながらどういった形をとって、広めていったらいいのかというのは、早急に今考えていきたいと思っております。

○石田（秀）委員

ぜひよろしく申し上げます。もう2年しかないし、そう考えるとプロの方々というのかな。そういうスポーツビジネスの方もいれば、大学の教授レベルの方も含めて、多分忙しいと思うのです。そういう人を仲間にして一緒になってやっていくと連盟も多分喜ぶと思う。連盟もやり方がわかっていないのだと思う。「マイナーです」と言っているだけでは、しょうがないわけで、そこをどういう仕掛けをしようなど提案してもらうのは、プロではないと無理だと思う。ぜひそこら辺はよく考えていただきたいなと思います。

○いながわ委員長

ほかにごございますでしょうか。

○南委員

今の質疑をうかがっていて、疑問に思ったのですけれども、確かにせっかくやる平和の祭典なので、選手の方々のパフォーマンスを本当にしっかりとやっていただくためにも環境整備。それから、それへのアプローチが大事だと思うので反対するつもりは全然ないのですけれども、誤解が出たらいけないと思って申し上げますが、そういうことを取り入れてやっていくにしても、品川区の役割と、それから東京都なり組織委員会の役割と、それぞれ役割があると思うのです。品川区の独自の予算を使ってパフォーマンスに向けたいろいろな専門家の方々のご意見というのを、それはそれとして伺いたいのですけれども、そういうところにも品川区として取り組んでいくのであれば、全体のいろいろな役割分担の中で、どういうところにどういうふうにと、そういう仕切りというものはあるのですか。全くなくて品川区独自にホッケーを皆さんに見に来ていただくための品川区としてのお金の使い方、予算の額も含めてですけれども、どういうふうを考えていったらいいのかなと天井がないわけではないと思うので、そこも含めて仕切り、仕組みのところを知りたいなと思います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

大会運営に関する仕切りとかそういった話だと思うのですが、ホッケーに関しましては、組織委員会のほうにホッケーをまとめるスポーツマネジャーという方がいらっしゃいます。その方を中心に、ホッケーにどういうふうにも人を集めるかだとか、例えば当日のボランティアどういうことが必要だとか、あと、運営の際にどういう準備が必要で、子どもにはどういう協力をもらうのかとか、そういったことをいつも考えて動いていらっしゃる方がいらっしゃいます。

先日もこちらのほうにいらっしゃいまして、役割分担だとかこういうことを協力してほしいということをお話をしたところでして、常にそういうふう組織委員会のほうとやりとりはしている状況でございます。

○南委員

そうすると、例えば品川区独自で人を集める、集客をするための算段。内容も含めて、あと予算をどこまでどう使うかというのは、そこは全く品川区独自の考え方で進めていけるものなのか、全体の流れの中で一緒になってその一部を品川区は受け持ちますよということなのか、その辺がわからなかったので教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

役割分担、区だけでやっているのかというお話だと思うのですが、例えばパラレルイベントといいまして、大会のときに区でお祭りをやりましょうと、勝手に区のほうで独自に突き進んでしまいますと、実はそのエリアは組織委員会のほうで使う場所だったとか、交通の関係だとかそういうのもございますので、必ず組織委員会とは相談はしながらやっています。区の予算で区が勝手にやるということは当然ありません。

○南委員

要するに、みんなが楽しんでいただける。そういうことを目的として取り組んでいくということももちろん大前提になるので、楽しんでいただける算段をというところは否定するものではないということをはっきり話しておきたいなと思います。

それから、直接的というわけではなくオリンピック全体に関してなのですけれども、本件に限らず、最近この猛暑の中で、開催時期を、例えばマラソンだとか、それから幾つかの競技については、開催時間を早めるというふうなことも報道されていますよね。あるいは、是非はいろいろあるのですけれども、サマータイムにするとかそういうことも含めてですが、アスリートファーストというところで考えると、再来年が今の日本のこの気候状況と同じになるかどうかは、全然私はわからないのですが、少なくとも同じような状況が続くのではないかということは、誰でも予想するところだと思うのです。

そういう点で考えたときに、猛暑の中で、アスリートの方ほど4年間蓄積してきたさまざまな訓練とか準備が、この暑さの中でしっかりと花開かせることができないから、オリンピックに参加すること自体も取りやめようかみたいなそういう意見も今ちらちら聞こえてくる中で、開催時期を変えたほうがいいのではないかと、そういう考え方も出されるようになってきていますよね。そういう点については、どういうふうに区として考えているか。今、改めて伺いたいなと思います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

今年は梅雨明けも早くて、本当に猛暑で、熱中症で倒れる方も多いというところで、確かに2年後の大会で大丈夫なのだろうかということが報道等でも言われていることは、私も認識しております。

海外のメディアでもそういった、大丈夫かというような意見が出ているというのは、見聞きしておりますが、今できることは、この大会が決まっている日程の中でどうやって安全に、そしてアスリートの方が目いっぱい頑張ってもらえる状態を、組織委員会、東京都、それから区が力を合わせてつくっていくかということですので、この日程のままで、時間等はまた考えるようなこともあると思いますが、すばらしい大会になるように準備をしていくつもりであります。

○南委員

誰でもすばらしい大会を期待しているところは、一致するところだと思うのですけれども、大事なことは4年間ずっと頑張って練習を繰り返してきたアスリートの方々の力の発揮が、100%この猛暑の中でできるかどうか。そういうことだと思うし、2年後になって、この暑さではとてもできないということで、参加することをためらうような、そういう状況にははいけないというふうに思っているのです。

今から本当に大きな英断。勇気を持って、時期をずらそうというそういう変更をすることにしたならば、まだまだ準備十分に間に合う時期だというふうに私は思うので、そういう方向も探るべきだろうなというふうに思っているのです。

ぜひそういうふうなことにして、なぜなら50年前に東京オリンピックを行ったときと今と全然気候が違うし、それから50年たった今、日本の気候の中で一番いい時期を避けて、こんな猛暑の湿度も非

常に高い中でやるということが異常なことであって、この時期に設定したということ自体、どうしてそんな決断したのだろうと、私は思っているのです。

ですから、やはりきちんとそれはボトムアップでいろいろな意見を出していくべきだというふうに思うのです。そういうことも含めてしっかりと地域からアスリートファーストというところをしっかりと受けとめて、この問題考えていき、勇気ある決断をできるようにしていくべきだということを強調して、終わりたいと思います。

○いながわ委員長

ほかに。

○鈴木副委員長

時間がないのにすみません。

この前、ビーチバレーボールの国際大会がありました。自民党から何人か行かせてもらって、伊藤委員とも行ってきたのですけれども、少し寂しかった状況でした。初日で夕方だったから、人が少なかったのかもしれないけれども、あれだけ会場の中で盛り上げ、当然区もいろいろなコーナーつくってやってもらっていましたが、全然人が少なかった。ビーチバレーボールでさえあんな雰囲気かなと。非常に日本人の盛り上がり方は下手ではないですか。それがホッケーだったら、もっと寂しくなってしまうような気がするのですけれども、そこら辺少しだけこの前の状況を踏まえて、どういうふうに行うか、それだけ教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

ビーチバレーボール、私も行きましたが、少し寂しい感じで、リオとかロンドンの盛り上がりとは違う、日本人の応援が違うのかなと思ったところもあったのですが、今回宣伝期間も短かったりとかいろいろあったと思うのですが、そうするとホッケーはどうなってしまうのだろうという気は、私も少しはしました。

ただ、開催2年前になりまして、もうメディアの出方も大分違うと思うのです。いろいろな意味で、2年前だということ新しいマスコットが出たりだとか、チケットのことが出たりだとか、少しずつメディアの露出度も上がって行って、国民のといいますが、区民の気持ちも少しずつオリンピックが近づいたのかなとなっているかと思しますので、その機運に乗りながら、区のほうでも少しずつといいますが、上昇気流に乗って機運を広げていきたいと思えます。

○いながわ委員長

ほかにございますでしょうか。

○大倉委員

簡単に。

今のお話もそうなのですが、選手とか競技のルールとか、今みたいな応援の仕方とかというのがわかるともう少し、ファンになりやすいのかなと。石田委員も言っていましたけれども、スポーツビジネスではないですが、プロの視点とか専門家の視点を持って、やっていくというのは1つ重要な視点なのかなと思っています。横浜DeNAベイスターズも行ってきましたけれども、ファンをつけていく工夫。例えば、球場で応援していて、ある選手が出てきた時に、その選手のタオルを掲げるとその球場の人たちが、バックモニターというのか、大型ビジョンに応援してくれている人を映していくみたいな。そうすると、行った人たちも参加しているというような感覚があるのかなと。

ビーチバレーボールもこの間行きましたけれども、間のハーフタイムとか、選手が交代するようなど

きに観客の人を映して、「映っていますよ」と言うと「わー」とやったりして、自分たちも行って応援して、そういう特別なビジョンに映って、みたいなそういう一体型みたいな感覚を持つというのは、非常に大事なのかなと思います。その中で、例えば選手の個人データみたいなものだったり、競技内容で、こうやるときは点が入って、こういうときはファールなんですみたいなもの。また、応援の仕方もうやってみると選手が喜ぶよとか、こういう応援の仕方ですら会場一体で盛り上げていきたいと思います。今後はホッケーの聖地として行くのですね。そうしたときに、2年後もそうですし、その後も見据えて、そういった取り組みをしていくというのは、非常に大事なかなとお話を聞いている中で思いました。

○いながわ委員長

ご意見でよろしいですか。

○大倉委員

何かあれば。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

そうですね。ビーチバレーボールの盛り上げ方は非常に上手です。ホッケーは昔から脈々とすごく歴史の古いもので、見方だとか応援の仕方というもおそらくそのままずっときている。そういった意味では、またホッケー協会の方や、今非常勤で来ている方などと話をしながら、少し盛り上げる方法というのは、考えていきたいと思います。

○いながわ委員長

ありがとうございます。

○石田（秀）委員

1点だけ。

今、大倉委員から出て、ここでもさっき聖地というお話があったけれども、もちろん日本のホッケー協会の方々が、そういうご希望をされていたということももちろん知っているし、岐阜が今聖地みたいなところをこっちに持ってきたいというお話も知っていますが、この委員会としては、最終的には要望は出したのは、多目的利用ができるようにというお話をしたと思うのです。多目的利用となると、本当に芝の話が必ず出てくるわけで、そこら辺のところは今聖地と言って、「うん」というようなうなぎき方だったのですが、それで決まっているとは私は理解していないのですが、その辺だけ確認させてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

私の中では、聖地だからホッケーしか使ってはいけないというふうには思っていないところでございまして、多目的利用というのは、こちらの区のほうも、東京都のほうにも、言っているところでございます。

○いながわ委員長

ほかにございますでしょうか。

ないようですので、以上で特定事件調査を終了いたします。

2 報告事項

品川区オリンピック・パラリンピック特設サイトの開設について

○いながわ委員長

次に、予定表の2、報告事項を聴取いたします。品川区オリンピック・パラリンピック特設サイトの開設についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

資料をご覧ください。ちょうど東京2020大会の2年前にあたる7月24日に、品川区のオリンピック・パラリンピックの特設WEBサイト、ホームページのほうを開設いたしました。こちらは、品川区で開催されるホッケー、ビーチバレーボール、それから応援競技のブラインドサッカーはじめとした競技の魅力を発信。それから、いろいろなイベントの開催告知、開催レポートなどを掲載しました。

今後は、区民ボランティアを募集する際にもこちらを利用するような予定でございます。

右下のほうに、アクセス用のQRコードがございますので、ご覧になっていただきたいと思います。

今後も、このような形でツイッターやインスタグラムでも担当をつくりまして、発信をしていくような予定であります。

○いながわ委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等ございましたら、ご発言願います。

○田中委員

視覚障害など障害がある方たちが探しやすいサイトになっているのかとか、障害のある方たちがどうやったらホームページが読みやすくなるのかとか、そういう意見とかも聞いたのかということを開きたいのですけれども。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

ホームページつくる際のアクセシビリティのお話ですが、一応作成している業者のほうにはそちらのほうに配慮しながらつくるよう相談して作成しました。

○田中委員

障害を持つ当事者の方には、具体的にこういうほうが、サイトとして見やすいとか、そういう要望を聞くことはありましたか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

作成過程で当事者の方には聞いておりませんので、もしも何かご意見がございましたら、逆に言っていただければ、そこについて改良していきたいと思います。

○田中委員

ありがとうございました。

あと、添付ファイルとかがある場合に、そのファイルの、何て言ったらいいのか、サイズではなくて、ファイルによって読めなかったりするらしいのです。視覚障害のある方たちは。そういう意見とかもぜひ聞き取ってほしいなと思うので、そこのところをよろしく願いいたします。

○いながわ委員長

ご要望ということで、よろしいですか。

○田中委員

もし、何かあれば。すみません。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

おそらくPDFなどで載せると読めないとかそういったことかなと思いますので、そこは配慮しなが

ら、また何かあれば、いつでも言っていただきたいと思います。

○田中委員

お願いします。

○いながわ委員長

ほかにございますでしょうか。

ご発言がないようですので、以上で本件および報告事項を終了いたします。

3 その他

○いながわ委員長

次に、予定表3のその他を議題に供します。

その他で何かございますでしょうか。

○立川文化観光課長

それでは、お手元に配付いたしましたGOOD PARK! 2018の開催について、ご案内させていただきます。

こちらの資料につきましては、先日7月30日の区民委員会で報告したものと同一でございます。

このイベントにつきましては、しながわ文化プログラムに参加しておりまして、また、つい先日でございますが、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局のほうから、beyond2020プログラムとして認証されましたので、本委員会でもご案内させていただくものでございます。

簡単に事業の説明をいたします。

まず目的でございますが、区内の多彩なアーティストや企業がチームを組んで、しながわ中央公園を1日限りのアート空間に模様がえし、身近な公園で誰でも楽しむことができ、文化芸術をはじめ、ものづくりの魅力や公園の持つ本来の魅力を体感してもらうものでございます。

日時は平成30年8月26日10時から。会場は区役所前のしながわ中央公園でございます。

内容は、オリジナル楽器や水鉄砲、かぶりものをつくり、4つの各種ステージイベントと一緒に参加できるものとなっております。4つの各種ステージについては、ご覧のとおりでございます。

周知につきましては、広報8月1日号ほか、チラシ、ポスター等で周知してまいります。

○いながわ委員長

本件について、何かご質疑がございましたら。

○鈴木副委員長

すみません。間違っていたらいけないのですが、この日は大井町での車両イベントと一緒に思うので、ぜひその人たちをこちらに引っ張れるように、何か駅前でアピールしてもらいたい。

○立川文化観光課長

この日、大井どんたくと同一の日でございます。大井どんたくにつきましては、土曜日に盆踊りを実施するというところでございますが、こちら日曜日でございます。大井どんたくのお祭りの実行委員会のほうにも、チラシ等を配っていただくということで、お話をしているところでございます。

○鈴木副委員長

大井どんたくもそうなのですが、大井町の東京総合車両センターで鉄道のイベントをやるのがたしか26日ではなかったかと思うのです。ものすごい人なのです。そういう人たち、ぜひ引っ張れな

いだろうかという、そういうことです。

○立川文化観光課長

大井どんたくの実行委員会のほうでも、JRのほうと話をし、相互に、来場者が行き交える、いわゆる回遊性を持たせるとかそういった中にこの事業も、一緒に考えていただくということで、お話ししているところです。

○いながわ委員長

ほかに何かございますか。

○あくつ委員

時間がないところ、すみません。

beyond2020認証受けたということなのですけれども、チラシにはそれは間に合わなかったということなのでしょうか。それとも表記するものがそもそもないのでしょうか。

○立川文化観光課長

beyondのプログラムについては、いわゆるロゴを使えるというそれだけの話でございますけれども、今委員ご指摘のとおり、間に合わなかったということです。いわゆる印刷の発注につきましては、もう1カ月前からで、beyondプログラムとして決定されたのが本当に今週に入ってからということでございます。

○あくつ委員

ありがとうございます。大変すばらしいイベントだと思うのですが、その趣旨、いわゆる文化プログラムであるとか、オリンピックというところのものがあまり表記としてないのです。ですから、今後もし周知をされる場合には、先ほどまさに一番の売り、売りという言い方は失礼かもしれませんが、1つのアピールポイントとして、beyond2020、これ多分手続相当大変だったと思うのですが、それをクリアされたというところで、ぜひ大きくアピールしていただければと思います、いかがでしょうか。

○立川文化観光課長

チラシの裏面の一番下の右側に大変小さくて恐縮でございますが、しながわ文化プログラムということで、アピールしているところでございます。

○あくつ委員

お言葉を返すようで申しわけないのですが、これを見てオリンピックとつなげられる人が品川区民でどれぐらいいらっしゃると思われませんか。

○立川文化観光課長

しながわ文化プログラム自体がまだ浸透しているとは言いがたいというふうに認識しております。

また、これは、「わ！しながわ」のいわゆるシティプロモーションのマークと一緒にございますので、これだけでは、いわゆるオリンピックに向けた機運醸成というそういったものというのは、なかなか難しいかなと考えておりますので、今後は工夫していきたいと思っております。

○いながわ委員長

ほかに、その他で何かございますか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

それでは、私から2点お話しさせていただきます。

1点目は、資料はございません。このたび、品川区立総合体育館が、東京2020オリンピック競技

大会のほうで、ハンドボールの公式練習会場として使用されることが決定いたしました。本日、8月1日付で組織委員会と覚書を交わすことになっております。

公式練習会場というのは、国際競技団体、国際オリンピック委員会の承認を経て、正式に決定され、大会時、選手村の開村から競技終了までの期間、出場選手がそこで練習する会場ということでございます。

その期間は整備も含めて一般の方の利用が制限され、組織委員会の利用期間となります。今のところ決まっていますが、大まかな期間と利用制限エリアでございます。利用期間は、2020年の7月上旬から8月の中旬までで、利用制限エリアは、1階にしましては、選手の入替えのときだけ入り口からロビーの一部とエレベーターでございます。それと、地下2階。こちらフロア全体が組織委員会の利用となって、一般の方がご利用できなくなります。

利用者、区民の皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解ご協力いただきたいということで、本日こちらでお話をさせていただいた後に、ホームページ等で公表。それから、総合体育館のほうでも掲示をする予定になっております。これが1点でございます。

もう1点は、机上に「かんたん！パラリンピックガイド～夏季大会編～」というものを、今回配付させていただきました。6月の委員会のときに、パラリンピックのことが出ているような簡単なものがあつたらいいというご意見もいただきましたので、こちら日本障がい者スポーツ協会が、今年の6月に発行したものでございますが、こちらのほうを参考のために配らせていただきましたので、お目通しをいただきたいと思っております。

○いながわ委員長

ありがとうございます。

2点、報告がございましたが、何かございますでしょうか。

○石田（秀）委員

お願いだけ。

練習会場になってよかったと思っているのですけれども、ぜひ、観覧許可。細かいことはこれから出てくると思うのですけれども、ぜひそれこそそういうところにも子どもたちが行けたりとかいろいろなことができるのではないですか。そういうこととか、もしあれば体験ができれば、期間中ですごく難しいかもしれないけれども、終わった後とかであれば、まだ壊すまで何日間かあるのだからから、そのところを使って何かやるとか、そういうこともあわせて、もし可能であれば考えていただきたい。

それだけ、お願いします。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

お話をいただいたときに、区民が何か交流する場面とか、子どもたちの何かというお話はさせていただいて、今のところ、組織委員会は、やはり皆さん勝ちに来ていますので、なかなか厳しい。練習風景も見せられないというようなご意見をいただいたのですが、ここはまた粘り強くしつこいぐらいに言っているところです。いいご報告ができればいいかなと思います。

○いながわ委員長

ほかに。

ないようでしたら、正副委員長より、次回の委員会について、先にご案内させていただきます。

次回、8月29日の委員会では、オリンピック・パラリンピックの推進に関するものうち、「ボランティアの育成・確保についてなど」について、この後予定しております東京モノレール大井競馬場前

駅と都立大井ふ頭中央海浜公園の視察において、お気づきになった点など意見交換を行いたいと考えておりますので、各委員におかれましては、ご準備のほど、よろしく願いいたします。

また、同調査項目のうち、「区独自の取り組みについて」、3競技応援マスコットキャラクターの活用についても、調査いたしますので、委員各自アイデアをお考えいただき、ご提案いただければと思います。

最後に、大会組織委員会との意見交換についてですが、来年1月ごろに実施したいと考えております。これから、先方と調整させていただくにあたり、より充実した意見交換とするため、ある程度意見交換のテーマを絞りたいと考えております。そのため、まだ先の話ではありますが、意見交換を行いたいテーマについて、会派ごとに意見を取りまとめていただき、8月10日金曜日までに事務局にご提出くださいますよう、ご協力お願いいたします。

なお、意見交換の実施まで期間がございますので、ご提案をいただいたテーマの結論が出てしまうことも考えられます。その際の調整や取りまとめにつきましては、正副にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○いながわ委員長

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

以上で、その他を終了いたします。

4 視察

○いながわ委員長

次に、予定表4、視察を議題に供します。

本日は特定事件調査に関連して、大井競馬場駅前および都立大井ふ頭中央海浜公園の視察にまいります。

大井競馬場前駅につきましては、ホッケーの競技会場となる大井ふ頭中央海浜公園の最寄り駅でもありますので、浜松町駅の駅長にもお話をうかがいながら、大会期間中の駅から会場への動線や勝島歩道橋南側エレベーター設置工事の状況も見ながら、バリアフリーの視点等でも視察ができればと考えております。

それでは、視察にまいります委員および視察に同行される理事者は、第三庁舎2階にマイクロバスをご用意しておりますので、お集まりいただきたいと思います。

直ちに放送にて、ご案内申し上げます。

議会の運営上、暫時休憩いたします。

また、机上に配付しております視察行程表の中の徒歩で移動する部分ですが、本日は非常に気温が高くなっておりますため、マイクロバスにて移動しますので、ご了承いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○午後1時47分休憩

〔 視察場所： ①東京モノレール 大井競馬場前駅
②都立大井ふ頭中央海浜公園 〕

○午後3時25分再開

〔車中にて再開後、閉会を宣する〕

○午後3時25分閉会